

未来

郵政産業ユニオン
PIWU

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 4192
21年10月15日(金)
Tel・Fax 095-828-1953

「平常物数」は見直しが必要

おはようございます。
「今日の物数は〇〇%」
なので定時を目指すように」

これは集配営業部の班長ミーティングで周知される内容です。大区分も書留授受も終わらない状態で業務指示を出すことに違和感を覚えるのは私だけでしょうか？皆さんこの平常比〇〇%の元になる数字を知っていますか？

この当日配達すべき郵便物の平常比〇〇%と言うのは、郵便部から集配営業部に交付された物数を伝達する「集配営業部交付物数・入力・輸送状況表(以下、交付物数表)」に、記載されている数字です。これには当日の通常・ゆうパック・書留の物数が、平常物数・当日交付物数・平常比などの項目ごとに記載されています。また集配交付内訳

として2パス・小物手区分・大型の物数も記載されていて、〇〇%なので定時を・・・という周知の根拠となっています。記載されている長中局の平常物数は7,9万通です。当日の交付物数をこの7,9万通で割ったものが平常比〇〇%という数字になります。



この平常比ですが、実際の各配達区の平常比とはかけ離れている場合が多くあります。中には100%未満でと周知されたものが、配達区の数字は100%を超えているということがあります。交付物数表の平常比は集配3部の平均なので、各配達区の平常比とは異なることもあるでしょう。しかしそれでも各部の平均平常比と交付物数表の平常比が違いすぎることはありません。なぜこのようないことが起きるのでしょうか？

先週火曜日(5日)は土曜休配後最初の火曜日

で郵便が多く、2時間近い超勤となった社員も多かった日です。この日交付物数表に記載されていた平常比は114,8%でした。ところが集配各部で言われた平常比は、1・2集は130%強、3集に至っては150%弱でした。集配各部の数字を単純平均すれば約138%です。この平常比の差はどこから来るものでしょうか。公式？数字と集配の平常比は違うのでしょうか？

当日の交付数約9万通を基にした平常物数は、交付物数表の114,8%を基準にすれば7,9万通となります。一方、集配の単純平均約138%を基準にすれば平常物数は6,6万通弱になります。7,9万通と6,6万通弱どちらの数字を基にするかでインパクトは大違いです。極端な話、114,8%なのに何故2時間近い超勤になるのかと思われても仕方ありません。

また交付数が7万通の日、基準物数が7,9万通なら平常比は89%となり定時で終わるはずと

考えるでしょう。一方6,6万通弱を基準物数とすれば106%となり今日も100%以上、今日も超勤かという事になります。100%を超えるか超えないかで社員が感じる「定時退社」へのプレッシャーが変わってきます。この基準が当てにならないとしたら配達員としては「やつてられない、いい加減にしろ！」って言いたくなります。

そもそも集配部のポードに書かれている平常物数は10年以上変わっていないように思われます。毎年の「物数調査」をもとに変更しろとは言いませんが、通常郵便が減少し、ゆうパケットなど作業に手間のかかる郵便が増え、配達にかかる時間が大幅に増加した昨今、各配達区の状況に沿った平常物数の設定が必要だと思います。もちろん公式の平常物数と集配部の平常物数を一致させるのは前提



です。こちらは早急に点検し、配達員が不信を抱かずに済むようにすることを要請します。

訂正のお知らせ
本誌10月5日号の記事に誤りがありました。訂正しお詫びします。
・一段目
正社員登用試験応募者の減少の項
「1,241人の減少」を「1,417人の減少」に訂正します。



9月期定例窓口報告
9月28日に行った9月期の定例窓口でユニオンは「第三集配営業部の受託者撤退」について、社員対応など社員の負担とならないように対応を取るよう求めました。この件について10月11日長中局より、新規の受託契約を結ぶよう上申中であり「新旧の受託者の契約期間に空白は生じない」と説明がありました。
撤退まで半月余りとなり、新たな配達員の訓練が間に合うのか等の心配は尽きませんが、社員対応となることは無いと思われま

われま

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。
期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。
ゆめが、均等待遇。なげんご差別。ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！